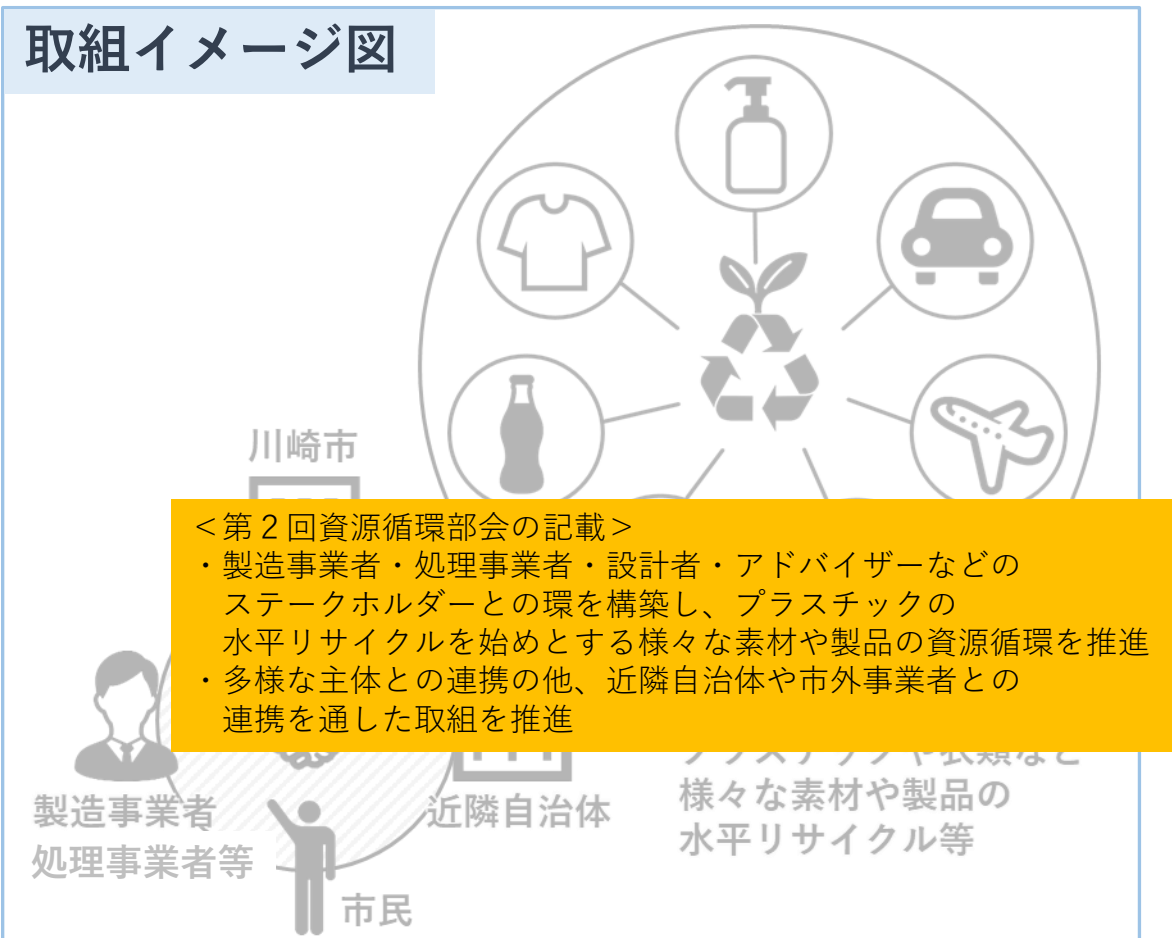

重点案（参考）について

【重点 01】 素材・製品の水平リサイクルを始めとする循環経済の促進

取組イメージ図



<現状・課題>

- ・ 20社を超える企業が参画し、プラスチックの資源循環に関する様々なプロジェクトを実施
- ・ 国では成長志向型の資源自律経済戦略や国家戦略として循環経済の実現を目指す等、循環経済・資源循環への取組が必要

<取組>

- ・ 「かわさきプラスチック循環プロジェクト」の枠組みを活用し、様々な事業者等と連携したプラスチック等の循環の取組実施
- ・ 「Kawasaki Circular Design Park」などの庁内プロジェクトと連携した取組の推進
- ・ 市内の優れた環境産業の取組等を情報発信することでプレゼンスの向上を図る

【重点 02】事業者と連携したリユース・リサイクルの推進

取組イメージ図



<現状・課題>

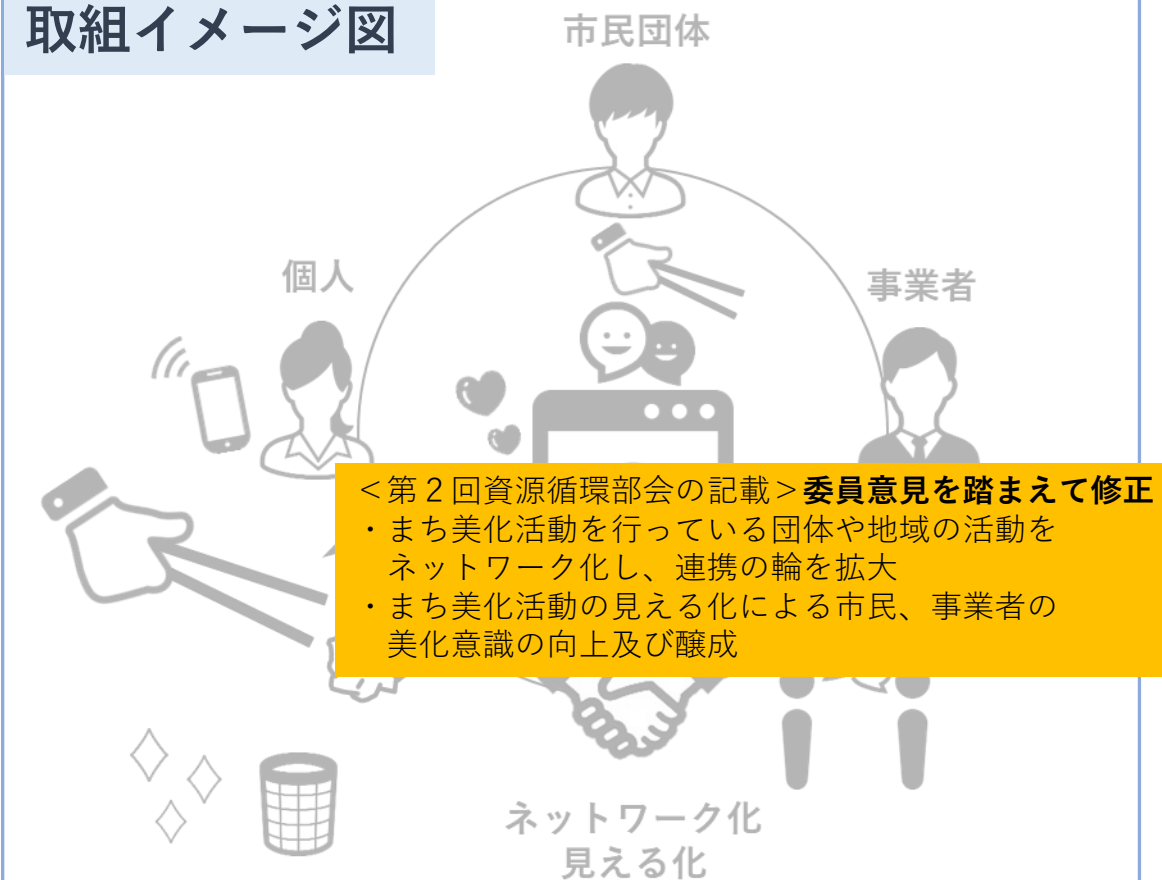
- ・プラスチックや合成繊維は燃やすと温室効果ガス排出の大きな要因
- ・事業者の自主回収（特にプラスチックや衣類の分野）の取組が拡大中
- ・国は、CEコマース全体を拡大する方針
- ・リチウムイオン電池の利用拡大に伴い、全国的に廃棄物処理施設等で火災事故が多発
- ・民間事業者等と連携した取組が必要

<取組>

- ・CEコマース事業者との連携、製造や小売の事業者等による自主回収・拠点回収への誘導促進（衣類・粗大・小物金属・プラスチック・リチウムイオン電池等）
- ・リユーススポットの促進

【重点 03】多様な主体と連携した美化活動の推進

取組イメージ図



<現状・課題>

- ・ごみの散乱は、景観を損ねるだけでなく、自然環境に及ぼす影響も危惧されており、その1つである海洋プラスチックごみ問題は国際的な課題
- ・本市でも駅周辺や公園等にポイ捨てが散見されており、一人ひとりの美化意識向上が必要

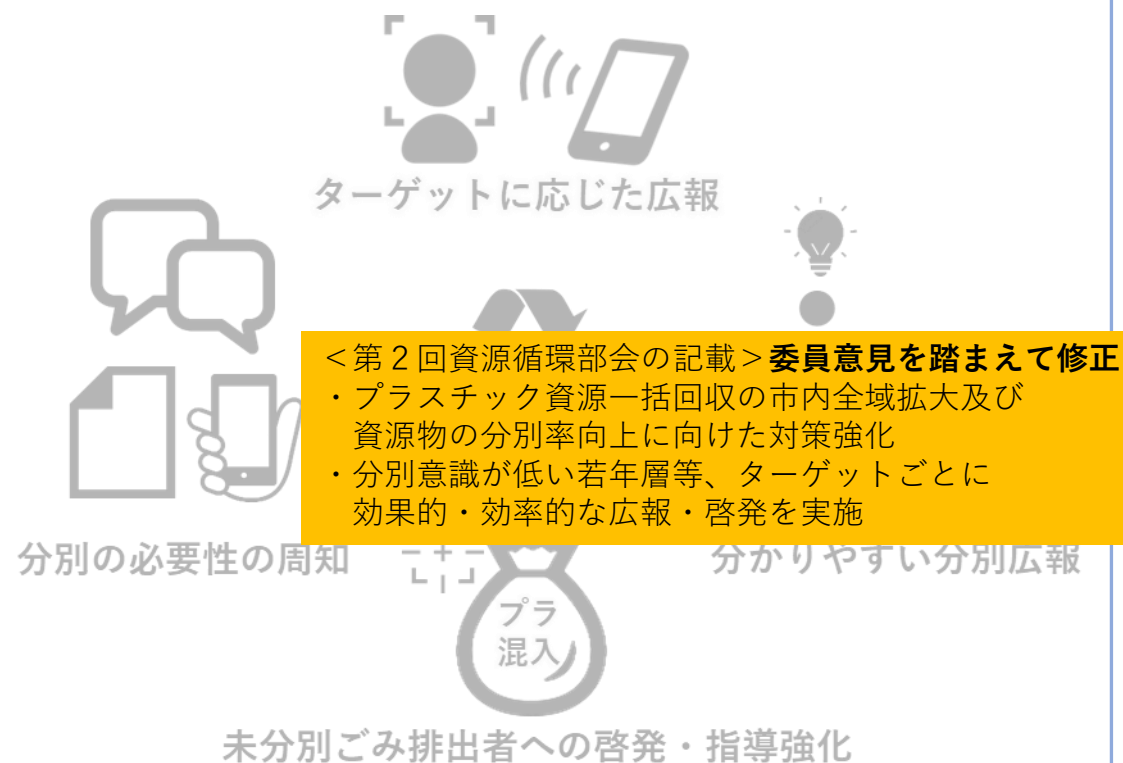
<取組>

- ・団体や地域で実施しているごみ拾いなどの美化活動の「ネットワーク化」による連携推進、「見える化」による市民の美化意識の醸成
- ・キャンペーン等を活用した市民の意識啓発の実施
- ・廃棄物減量指導員や周辺住民と連携した集積所周辺等の環境美化の推進

<第2回資源循環部会の記載> 委員意見を踏まえて修正
・プラスチック資源の分別率向上

【重点 04】プラスチック資源等の分別率向上

取組イメージ図



<現状・課題>

- ・プラスチック製容器包装の分別率は約40%に留まり先進自治体に比べて低い状況
- ・特に若年層(20、30代)の分別意識が低い傾向
(従来の広報が年代により届きにくいことも一因)
- ・脱炭素化・資源化に向けて、更なる取組の拡充が必要

<取組>

- ・若年層や外国人市民等、ターゲットに合わせた効果的・効率的な広報・普及啓発の実施
- ・集合住宅が多い本市の特性を踏まえた広報・普及啓発の実施
- ・分別マナーの悪い排出者を対象とした排出ルール徹底に向けた対策強化

<第2回資源循環部会の記載> 最新値に数字更新

・2023年度時点の推計削減率は、家庭系、事業系合わせて約70%の減となるが、事業系のみでは約40%減にとどまり、更なる取組が必要

【重点 05】事業者と連携した食品ロス（食品廃棄物）削減の取組推進

取組イメージ図



<現状・課題>

- ・2030年に向けた国の食品ロス削減目標（2000年度比）は、家庭系半減、事業系60%減

- ・本市の2024年度時点の推計削減率は、家庭系、事業系合わせて約74%の減となるが、焼却ごみ中に約2.3万トン含まれているため、更なる取組が必要

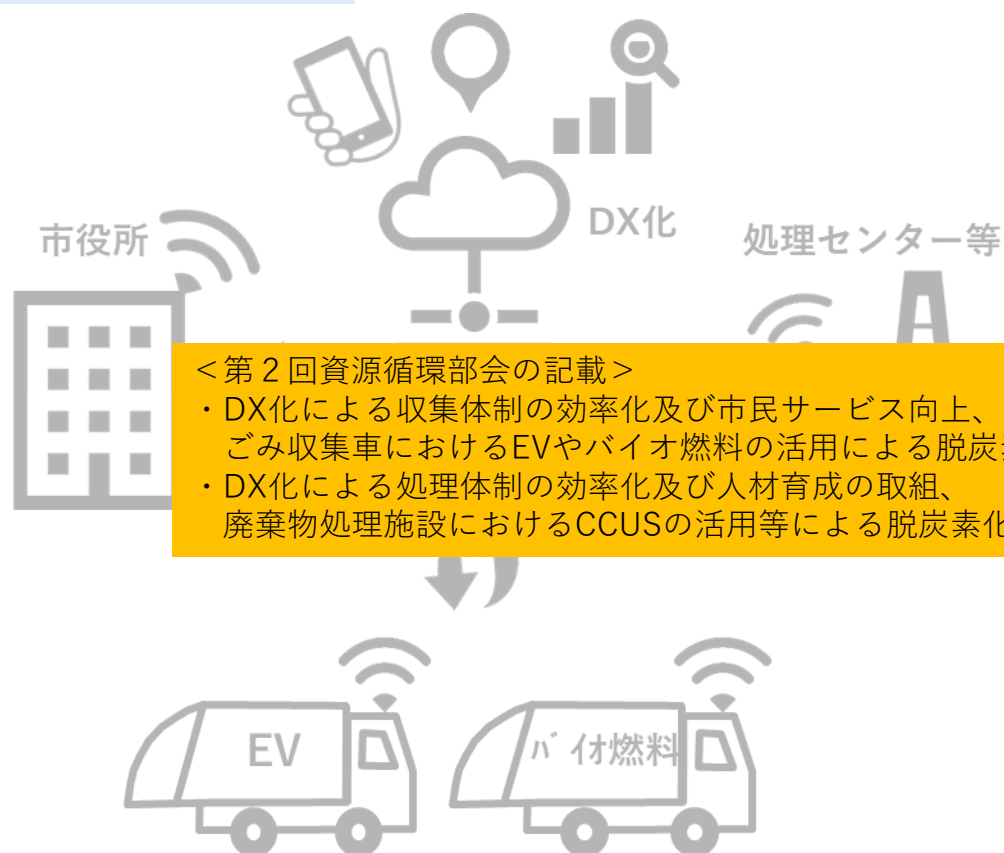
<取組>

- ・事業系食品廃棄物のリサイクルルートへの誘導、小売事業者・飲食店等との連携強化
- ・フードシェアリング等による食品の活用促進に向けた事業者支援の充実
- ・大規模ショッピングセンターなどの事業者と連携した市民への普及啓発の実施

< 第2回資源循環部会の記載 >
・収集・処理体制のDX化・脱炭素化の推進

【重点 06】処理体制のDX化・脱炭素化の推進

取組イメージ図



< 現状・課題 >

- ・デジタル技術（AI、ICT、自動運転等）の発展
- ・少子高齢化が進行し、労働人口の減少
- ・市事業の約4割を占める廃棄物焼却に伴う温室効果ガスの削減が必要

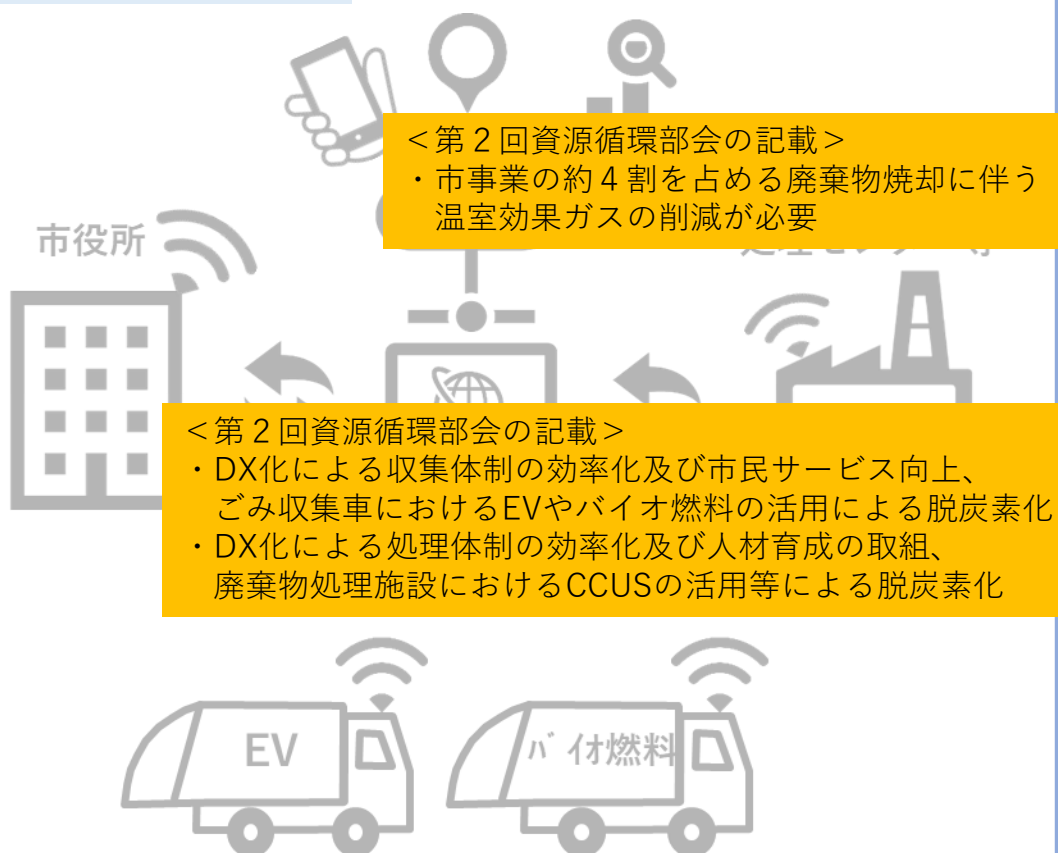
< 取組 >

- ・技術者不足等に対応するため、効果的な人材育成や持続可能な処理体制に向けたデジタル技術の導入等の検討
- ・廃棄物焼却における2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、ごみ焼却に伴い発生するCO₂を回収、利用・貯留を行うなど、温室効果ガス削減の取組を推進

<第2回資源循環部会の記載>
・収集・処理体制のDX化・脱炭素化の推進

【重点 06】収集体制のDX化・脱炭素化の推進

取組イメージ図



<現状・課題>

- ・デジタル技術（AI、ICT、自動運転等）の発展
- ・少子高齢化が進行し、労働人口の減少
- ・自然災害等の緊急時の迅速な市民サービス向上に向けた収集体制の整備
- ・自動車のEV化等による環境負荷の低減

<取組>

- ・ごみ収集業務へのデジタル活用による災害時の活用、車両事故防止、地域連携等の視点を含め、デジタル化を検討
- ・廃棄物鉄道輸送や中継輸送施設を活用しながら環境負荷低減に向けて取り組むとともに、ごみ収集車等の廃棄物関係車両についてもEV車の導入を軸に検討を実施

【重点 07】ふれあい収集や一時多量ごみ制度等の充実強化

取組イメージ図



<現状・課題>

- ・本市の高齢化率は上昇を続け2050年には約3割に達する見込みで、ごみ出し困難者の増加が見込まれる
- ・遺品整理や引越し等に伴う一時的に多量排出されるごみへの対策強化が必要

<取組>

- ・ごみを持ち出すことのできない高齢者・障害者の方に対し実施している「ふれあい収集」について、社会状況の変化と各地域の特性を踏まえながら、取組の充実・強化を図る
- ・遺品整理や引越し等の市民ニーズに対応した一時多量ごみへの対応を充実